

# 連合気仙 2022 新春旗びらき



日時 2022年1月13日(木)  
開場 18:00 開会 18:30~  
会場 大船渡プラザホテル  
構成 来賓、構成単組、地協関連役員  
内容 活動の上映、単組紹介、抽選会  
会費 3,000円/人  
※ 飲料はノンアルコール、  
コロナ過の状況により、開催  
縮小・中止も考慮を致します。



◆連合気仙事務局の閉鎖◆  
連合岩手の事務局休業に連動して、事  
務局を閉鎖します。  
2021年12月29日~  
2022年1月4日



## 地域政策課題に関する 対話会

二月二日、シール大船渡において、連合気仙二〇二二政策・制度要求と提言(八課題四三項目)の自治体要請に対する大船渡市の回答書を踏まえ、東大船渡市議会議員 連合岩手鈴木事務局長にも同席していただき、「地域政策課題に関する対話会」を開催した。

対話会では、急速な高齢化と少子化、人口減少、地域の過疎化などが進む中、地域経済、生活と仕事の両立、公共交通、教育拡充、環境問題、社会保障制度など持続可能な社会基盤の構築に向けた地域課題を検証した。

要請に対する主な回答は、

- ① 大震災からの復興・再生補助金・諸制度の継続
- ② 国の支援が五年間延長、ソフト支援、残された事業に国・県と連携し取り組む。
- ③ 復興公営住宅の賃貸料免除の期間延長
- ④ 当面の期間継続する。
- ⑤ 健康事業団体への支援を被災者等の心のケア・心の復興事業の制度利用団体を支援、健康見守り訪問の実施、後継者の育成支援、など
- ⑥ 教職員の加配措置等
- ⑦ 県教育委員会に対し要望、継続的な支援に努める。

二. コロナ禍の支援対策

- ① ワクチン接種の効率化
- ② 気仙圏内の医療提供体制の確保、国の方針に沿って速やか・適切に対応する。
- ③ 雇用の安定と労働者施策
- ④ 企業誘致、地場産業の育成
- ⑤ 労働環境の改善は広報等で啓発、製造業や運輸業を中心に企業訪問し立地意向把握、企業立地奨励制度の周知、ビジネスマッチングなど
- ⑥ 社会福祉、保健医療
- ⑦ 相談・提供体制の整備
- ⑧ 各種相談は、地域包括支援・在宅介護支援センターで対応、入居待機者ゼロに向け施設新設、増床を計画中。
- ⑨ 教育の拡充、環境整備
- ⑩ 学校配分予算等の対策
- ⑪ 学校規模により配分、徴収金は事業計画に基づき算定し、随時、協議している。
- ⑫ 安心、安全のまちづくり
- ⑬ 公共交通、交通弱者の支援
- ⑭ 運転免許証を持たない七五歳以上・遠隔地の方にタクシー利用料金の一部を助成、デマンド交通を模索中。
- ⑮ ハラスメントの根絶
- ⑯ 偏見と言動の払拭対策
- ⑰ 広報に情報掲載、図書展の啓蒙事業、相談窓口の設置、婦人相談員を設置して対応、対策研修会の実施など
- ⑱ 公契約条例の制定
- ⑲ 適正な労働条件の確保
- ⑳ 条例には、最賃法や労働基準法など、国の権限に属する事項が含まれ、国の法整備等が優先されると考える。

# 連合

# esen

## No. 141

[2021.12.23]

連合岩手気仙地域協議会  
大船渡市猪川町前田 9-17  
TEL 0192-27-8671  
FAX 0192-47-3471  
http://www.rengo-iwate.jp/

発行責任者：梅木 博  
編集責任者：星 正和

連合  
労働相談  
ホットライン  
0120-154-052

雇用の不安  
雇い止めの不安はありますか？



一月二日、シール大船渡において、第三十三回定期大会を開催した。来賓には連合岩手佐々木会長・鈴木事務局長、推薦議員の熊谷昭浩市議、東壱本市議、労福団体の皆さまに出席をいただいた。

大会議長団には木川田雄一代議員(マイヤ労組)、千田淳代議員(県交通労組)を選出した後、梅木議長が挨拶し、今年度の活動に触れながら「コロナに負けず新しい生活様式を手に入れ、豊かで安全

## 連合気仙 第33回定期大会

### 安心社会へ 新たなチャレンジ

~すべての働く仲間とともに「必ずそばにいる存在」へ



- 幹事 伊藤 将(開発労組)
- 事務局長 細野千鶴子(マイヤ労組)
- 角地雅樹(太平洋セメント)
- 下瀬川浩平(電力労組)
- 星 正和(専従)
- 石橋博徳(県交通労組)
- 小林明子(マイヤ労組)
- 小松伸浩(マイヤ労組)
- 坂本容子(高教組)
- 佐藤 祐龍(振労組)
- 鈴木将太(三栄労組)
- 花輪美月(太平洋セメント)
- 堀尾昌史(住田町職)
- 松田健英(星和労組)
- 村上紗織(労金労組)
- 佐々木直人(コアテック)
- 高橋ゆかり(ホンマックス)
- 会計監査

## 青年委員会 第16回定期総会

連合気仙青年委員会は、12月7日、気仙教育会館において、三浦光子労金大船渡支店長を来賓に招き、第16回定期総会を開催した。

大会議長団には、青木陽平代議員(星和工業労組)、高橋聖貴代議員(東北電力労組)を選出、執行部を代表して下瀬川委員長が挨拶、佐々木事務局長提案の2021年度の活動報告、①社会参加活動、②学習活動、③組織づくりと青年活動の活性化の活動方針(案)を採択、役員改選(案)を承認して下瀬川委員長のガンバロー三唱で定期総会を閉じた。新役員は以下のとおり

委員長 木村大輔(東北電力労組)、副委員長 新沼秀一(JP 労組)、事務局長 黄川田悠介(太平洋セメント労組)、幹事 新沼皓平(星和工業労組)、鈴木健太郎(三栄工業労組)、人選中(岩教組)



一方、変わらなかったことで意外なものがありました。それが職場内のコミュニケーションです。もちろん飲み会や研修、イベント、雑談などは減りましたが、仕事をやる上でコミュニケーションが不可欠なことは変わりないです。コロナ前と変わらぬところは、コミュニケーションが不可欠なことです。

明確な目的があるものは変わらないというところですが、合理化が進む昨今、目的のないもの、寛容な社会の方が生きていきやすいと感じる今日この頃です。 昌・H

コロナ禍が長期化し、もうすぐ二年となります。当初手探りだった感染症対策は定型化し、収束に向けて日常生活を営むための試行錯誤を繰り返しているのが現状です。長期化により自粛疲れと新型コロナウイルスへの慣れに加え、多くの新たなサービスがでてきており、少しずつ生活に変化が起きている印象があります。

コロナ禍で最も変わったことといえば、やはり、マスクの着用です。以前はマスクをしていない人は風邪や花粉症の人という印象でしたが、現在は、ほとんどの人がきちんと着用している印象です。マスクの必要性が浸透してからは、多くのブランドやクリエイターが個性的なモチーフのマスクを提案するようになったのも驚きでした。かつて薬局ですら入手するのが難しかった不織布の使い捨てマスクも、今ではスーパーで買えるようになりました。

一方、変わらなかったことで意外なものがありました。それが職場内のコミュニケーションです。もちろん飲み会や研修、イベント、雑談などは減りましたが、仕事をやる上でコミュニケーションが不可欠なことは変わりないです。コロナ前と変わらぬところは、コミュニケーションが不可欠なことです。

明確な目的があるものは変わらないというところですが、合理化が進む昨今、目的のないもの、寛容な社会の方が生きていきやすいと感じる今日この頃です。 昌・H

